

科目No. 39 科目名 健康支援と社会保障制度 保健医療福祉行政論Ⅲ 時間割表記名 保健医療福祉行政論Ⅲ	配当時期 4 年次後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間（15 回）	担当者 なかひら よしき 中平 克樹
科目のねらい 保健医療福祉行政施策を理解し、生活する人々の特性と地域の状況に応じて各地域で効果的な実践活動ができる力を身につける 授業目標 1. 保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、政治・経済・社会情勢と連動した法や制度の改正を知る 2. 保健福祉行政に関する諸制度・活動の実際の理解を深め、現状と課題を明らかにする	DPとの関連	
	人間理解	
	倫理・関係構築	○
	看護実践	○
	協同・課題解決	○
授業の流れ (全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)		
回数	学習内容	
第1回	地域保健に関する公的機関 1	都道府県と市町村の役割分担
第2回	地域保健に関する公的機関 2	保健所等の仕組み
第3回	関係機関との連携	職域、学校との連携、民間との協働
第4回	社会保障制度の理念と仕組み	社会保障制度の目的や分野ごとの特徴
第5回	医療制度と政策 1	医療保健や医療提供体制の法規
第6回	医療制度と政策 2	医療安全対策、医療対策
第7回	介護保険制度	介護保険の目的、仕組み
第8回	社会保障・社会福祉の制度 1	社会保険、生活保護
第9回	社会保障・社会福祉の制度 2	社会福祉の各分野
第10回	地方公共団体の保健医療福祉計画	各種計画の目的、内容
第11回	保健計画の策定プロセス 1	策定プロセスの概要
第12回	保健計画の策定プロセス 2	策定プロセスの概要
第13回	保健計画の推進と評価	計画の評価方法
第14回	保健事業の立案プロセスを学ぶ 1	立案プロセスの概要
第15回	保健事業の立案プロセスを学ぶ 2	立案プロセスの演習
受講上の注意 テキスト、国民衛生の動向を中心に学習を進め、演習では調べた内容をまとめて報告します。 日々の社会情勢に興味をもって、授業に臨んで下さい。		評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論 医学書院		

科目No. 60		配当時期 4 年次全期	担当者	
科目名	看護倫理	単位数 1 単位	山口 さゆり	
時間割表記名	看護倫理	時間数 30 時間（15 回）		
科目のねらい 事例をもとに、リスクマネジメント能力、倫理的判断能力を養う。			D P との関連	
			人間理解	
			倫理・関係構築	○
			看護実践	○
			協同・課題解決	○
授業目標 1. 看護倫理とは何か、なぜ倫理を守る必要があるかを理解する。 2. 医療におけるセーフティーマネジメントを理解する。 3. 倫理的ジレンマを分析し、倫理的ケアの実践を学ぶ。			探究・成長	○
			授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）	
回数	学習テーマ	学習成果	課題	方法・備考
1 回目	ガイダンス 看護倫理とは 看護倫理の基本的な考え方 1. 倫理概念（4つ） 2. 看護師の倫理綱領	看護倫理とは何か、倫理に対する基本的な考え方、倫理綱領を考える ナラティブで分析（物事を客観的に分析できる）	①Pre-Report 「倫理って何だろう？」 ②「自分のナラティブ」を書いてみよう	講義
2 回目	3. 看護職の倫理的責任	事例を通して考える	③GW「事例の倫理的問題は何か」	講義
3 回目	医療事故の現状、インシデントレポート 針刺し事故	事故が起こる背景、事故の実際と分析、針刺し事故の報告、インシデントレポートの書き方	④Pre-Report 「注射業務の危険」	講義
4 回目	医療事故	注射業務のリスクと事故予防		講義
5 回目	医療事故	看護職の期待される役割と看護専門職としての責任が理解できる		講義
6 回目	薬剤の取り扱い 麻薬、劇薬、毒薬、血液製剤			講義
7 回目	倫理的葛藤、意思決定支援	事例の倫理的葛藤はなぜ生じるのか、意思決定支援とは何か	⑤「自分ならどうする？」	講義
8・9 回目	倫理事例の分析	3組に分かれてディベート&発表 当事者・家族・医師・看護師に分かれ、司会書記がカンファレンスを運営する	事例を当事者、家族、医療従事者の立場で考え、ディスカッションを行う 多職種カンファレンス ⑥発表PP（グループ別）	東館3F講堂
10 回目	身体拘束	身体拘束について、その背景と労働者の考え		講義
11 回目	身体拘束	身体拘束をしない看護の事例を考える	⑦「身体拘束をしない看護とは」	3F実習室
12・13 回目	倫理的配慮のある看護実践(OSCE練習)	状況の設定と、看護計画立案		3F実習室
14・15 回目	OSCE OSCEまとめ	医療安全・看護倫理の学習を通して、学びの確認と自己の課題を明確にする		3F実習室
受講上の注意 倫理的問題や葛藤、看護職としての倫理的責任の理解、医療安全の意義や背景の理解はこれからの就労環境での重要事項です。授業のケースを自分自身が直面する事象と考えて、グループワークやOSCEに積極的に取り組んでください。 グループでのワークは大切です。グループダイナミクスを活用し、自分自身の役割遂行とチームへの貢献に努めましょう。			評価方法 1.出席、授業参加状況、提出物 40点 2.筆記試験 30点 3.OSCE 30点	
使用するテキスト 系統看護学講座 看護の統合と実践〔1〕看護管理 医学書院				
参考文献 系統看護学講座 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院、看護実践の倫理 日本看護協会出版会				

科目No. 64		配当時期 4 年次全期	担当者	
科目名	公衆衛生看護学 多職種連携支援論	単位数 1 単位	松本 留美 田淵 眞由美 安藤 えつ子 加藤 舞	
時間割表記名	多職種連携支援論	時間数 30 時間 (15 回)		
科目のねらい 地域に根差した関連機関関係職種とのネットワークの構築やチームにおける看護職の果たす役割を理解する			D P との関連	
授業目標 学校の健康課題を解決するため、児童、生徒の発達段階や生活の特徴を踏まえた保健教育、保健管理、組織活動を考えることができる 労働者の健康の保持増進、快適な職場環境づくりに向けて考えることができる			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	○
			協同・課題解決	○
			探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回数	学習内容	学習成果	備考	
1. 2.	地域にある関係機関・関係職種	保健予防活動と多職種連携の意義を理解する 地域の関係機関と職種を確認する	公衆衛生看護学実習 全体オリエンテーション	
3. 4.	働く人の保健予防活動と多職種連携の意義	実習施設概要を理解し多職種連携支援について考える	公衆衛生看護学Ⅲ実習 産業保健	
5. 6.	学校における保健予防活動と多職種連携の意義		公衆衛生看護学Ⅲ実習 学校保健	
7. 8.	産業保健領域における連携の実際（まとめ） 学校保健領域における連携の実際（まとめ）	領域に応じた具体的連携についてまとめる	公衆衛生看護学Ⅲ実習	
9. 10.	産業保健領域における連携の実際（発表）	領域に応じた関係機関や職種との具体的な連携方法とその意義を理解する	公衆衛生看護学Ⅲ実習 産業保健	
11. 12.	学校保健領域における連携の実際（発表）	領域に応じた関係機関や職種との具体的な連携方法とその意義を理解する	公衆衛生看護学Ⅲ実習 学校保健	
回数	学習内容	学習成果	備考	
13. 14. 15.	多職種連携について必要な能力 見る・繋ぐ・動かす	保健予防活動における多職種連携に必要な能力を身につける		
受講上の注意 関心をもって積極的に学んでください 演習は、複数の教員で行います			評価方法 主体的な取り組み状況・課題(100点)	
使用するテキスト 標準保健師講座①公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座②公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座③公衆衛生看護活動 医学書院 公衆衛生が見える メディックメディア 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

科目No. 73		配当時期 4 年次全期	担当者	
科目名	公衆衛生看護学 地域づくり論	単位数 1 単位	安藤えつ子 松本留美 加藤 舞 田淵眞由美	
時間割表記名	地域づくり論	時間数 30 時間 (15 回)		
科目のねらい 住民主体の組織化活動と健康危機管理を含む地域づくりについて理解し、地区活動における保健師の役割を考える			DP との関連	
授業目標 地域にある組織の立ち上げや運営支援の方法について学ぶ 平常時からの健康危機管理の体制について学ぶ 地域の顕在・潜在している健康課題を明確にし、地域づくりに必要な社会資源について考える			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	○
			協同・課題解決	○
			探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回数	学習内容	学習成果		備考
1	公衆衛生看護活動における地域アセスメントの必要性和実施	対象となる地域の健康課題と地域づくりの取組（解決・改善策の計画・立案・実施・評価と事業化）について		講義
2～3	地域アセスメント (情報収集・地区踏査・インタビュー調査、分析と地域の健康課題の特定)	地域の特性を把握するため情報を整理・分析し、地域に暮らす人々の健康状態と生活の実態を把握する		演習
4～5		明らかになった地域の健康課題を特定し、優先順位を判断する視点から優先性を判断する		演習
6	保健師に求められる倫理的課題	公衆衛生看護活動における倫理的課題を理解し実際の活動を学ぶ		公衆衛生看護学 Ⅰ実習 オリエンテーション
7～8	地域における顕在的・潜在的課題の明確化	地域における顕在的・潜在的課題を明確にし、解決・改善策を計画・立案・実施にむけた提案内容をまとめた発表準備		公衆衛生看護学 Ⅰ実習 事前準備
9～10	健康課題の解決・改善策の計画立案			
11～12	地域づくりの実際や必要な社会資源等の学びについて発表	住民主体の組織化活動や関係機関・住民との連携・協働等地域づくりに取り組む保健師活動の実際について発表・共有する		公衆衛生看護学 Ⅰ実習 発表 まとめ
13～14				
15	まとめ	地域包括ケアシステム構築や地域の健康課題に対応する地域づくりや保健師の役割について考える		
受講上の注意 主体的に学ぶ姿勢で学んでください。			評価方法 主体的な取り組み状況・課題（100点）	
使用するテキスト 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

科目No. 74		配当時期 4年後期		担当者	
科目名 公衆衛生看護学 公衆衛生看護管理論		単位数 1単位		安藤 えつ子 田淵 眞由美	
時間割表記名 公衆衛生看護管理論		時間数 30時間(15回)			
科目のねらい 住民の権利保障と公衆衛生看護管理について考える 授業目標 公衆衛生看護管理の目的と機能を理解する 住民の権利保障と健康危機管理の必要性を学ぶ				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果		備考	
1	公衆衛生看護の質の保障と公衆衛生看護管理				
2 5 6	災害保健活動	東日本大震災、熊本地震、能登半島地震における災害保健活動の実際から、災害保健活動の基本、災害サイクルに応じた保健師活動を理解する。			
7 5 10	感染症集団発生時の保健活動	感染症集団発生時における、感染症調査の基本、感染症の種類や対象施設への対策を理解する。 感染症拡大防止 結核対策演習			
11 5 12	業務管理	地区担当制と業務分担 PDM(プロジェクトデザインマネジメント)			
13 5 14	予算管理 人材育成と人事管理 情報管理	予算編成 予算案の作成演習 個人情報保護と情報公開、情報の共有について(災害対策) 演習 公的文書の取り扱い			
15	地区管理	地域の健康課題の抽出と解決策 社会資源の管理と開発			
受講上の注意		評価方法 1～6回 災害保健活動 筆記・課題 40点 7～10回 感染症保健活動 課題 30点 11～15回 公衆衛生看護管理 課題 30点			
使用するテキスト 標準保健師講座 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					

科目No. 90		配当時期	担当者	
科目名	母性看護学 母性看護学方法論Ⅲ	4 年次全期 単位数 1 単位 時間数 30 時間（15 回）	うえしま なつみ 上島 夏美	
時間割表記名	母性看護学方法論Ⅲ			
科目のねらい 1～3年次の母性看護学の授業内容、臨地実習の知識、技術を活用して、ライフサイクル各期において女性とその家族の「性と生殖に関する健康と権利」を保証するための援助を学ぶ 授業目標 ライフサイクル各期において女性とその家族の性と生殖に関する健康と権利を保障するための援助を学ぶ 看護者自身が自己の性と向き合い、健康なセクシャリティをもち、性と生殖に関する諸問題について考え、母性看護のあり方を学ぶ				
			DPとの関連	
			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	○
			協同・課題解決	○
			探究・成長	○
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回数	学習内容	学習成果	備考	
1回	母性看護の基本となる考え方	母性看護の基盤となる概念が理解できる		
2 回	リプロダクティブ・ヘルス・ライツ ヘルスプロモーション	生涯のライフサイクルと性周期のライフサイクルが分かる		
3回	思春期の身体的、心理社会的特性	思春期の身体的、心理、社会的特性が理解できる		
4 回	思春期女性の健康問題と看護	思春期の健康問題と看護が理解できる。		
5 回	成熟期の身体的特性、心理社会的特性	成熟期の身体的、心理、社会的特性が理解できる		
6 回	成熟期女性の健康問題と看護	成熟期の健康問題と看護が理解できる		
7 回	更年期、老年期の身体的、心理社会的特性	更年期、老年期の身体的、心理社会的特性が理解できる		
8 回	更年期女性の健康問題と看護	更年期女性の健康問題と看護が理解できる		
9 回	ライフサイクル各期の女性への健康教育①	施設、地域で取り組まれている健康教育について学ぶ		
10 回	ライフサイクル各期の女性への健康教育②	施設、地域で取り組まれている健康教育について学ぶ		
11回	女性が健康に過ごすための健康教育・企画①	思春期の性教育を企画し、指導案を作成する		
12回	女性が健康に過ごすための健康教育・企画②	思春期の性教育を企画し、指導案を作成する		
13回	女性が健康に過ごすための健康教育・企画③	思春期の性教育を企画し、指導案を作成する		
14回	成果発表会	思春期の性教育を発表する		
15回	成果発表会、まとめ	思春期の性教育を発表する		
受講上の注意			評価方法 筆記試験 40点 プレゼンテーション 60点 課題状況・出席状況・授業態度	
使用するテキスト 系統看護学講座 母性看護学概論（医学書院） マタニティ診断ガイドブック（医学書院） 教材用母子健康手帳				
参考文献 根拠と事故防止からみた母性看護技術（医学書院）				

科目No. 94		配当時期 4 年次全期 単位数 1 単位 時間数 20 時間（10 回）	担当者 高木 加奈子 鴨川 聡子 寺内 桃子 谷淵 未生
科目名 看護の統合と実践 看護管理 時間割表記名 看護管理			D P との関連
科目のねらい 看護をサービスとしてとらえ、マネジメントとは何か、看護の経済性、効率性について 基礎的な理解を深める			
授業目標 1. 看護管理の基礎となる理論、看護の提供システムを理解する 2. 看護管理の実際を学び看護部門を構成する看護職員の責務と役割を理解する 3. 人材育成の実態や制度を学び、将来看護職として自己の能力を向上させる必要性を理解する 4. 看護における組織改革の必要性を理解する			人間理解 倫理・関係構築 看護実践 協同・課題解決 探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	科目ガイダンス 看護管理の歴史、看護管理の定義 看護管理のプロセスと対象、範囲	看護管理の歴史・定義、管理プロセスと対象、範囲を理解する	講義 演習
2回	看護サービスのマネジメント(1) サービスとは何か、マネジメントとは何か	サービスとマネジメントについて理解する	講義 演習
3回	看護サービスのマネジメント(2) マネジメントとしくみ 看護におけるマネジメント	マネジメントとしくみ、看護においてどのようにマネジメントされているか、その実 際を理解する	講義 演習
4回	看護ケアのマネジメント(1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能	看護ケアのマネジメントは、どのように行われているか、その実 際を理解する	講義 演習
5回	看護ケアのマネジメント(2) チーム医療の一員としての役割 日常業務のマネジメント	チーム医療の一員として、看護職が担っている役割と日常業務をどうマ ネジメントするかを理解する	講義 演習
6回	マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップとマネジメント 組織の調整、組織と個人	リーダーシップとメンバシップによって、組織が運営されていることを理解する	講義 演習
7回	キャリアとキャリア形成 キャリア・サイクル キャリアアンカーとキャリアプラン	キャリアサイクル、キャリアアンカーとは何かを理解し、キャリアプランについて考 える	講義 演習
8回	キャリアとキャリア形成(2) 自己のキャリア形成	キャリア形成のために、どのような資源があるのかを調べ、自己のキャリアプラン を考える	講義 演習
9回	看護管理の展望(1) 発表と共有	各自の看護管理の展望を共有し、展望をブラッシュアップする	講義 演習
10回	看護管理の展望(2) まとめと課題の明確化	看護管理について理解を確認し、看護職としてこれからはじめるキャリアをど うすすめるか考える	講義 演習
受講上の注意 グループワークを行います。参加する態度を評価しますので、積極的な参加をお願いします。			評価方法 課題 出席状況 筆記試験
使用するテキスト 系統看護学講座、看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論			
参考文献 新体系 看護学全書 <別巻> 看護管理 看護研究 看護制度			

科目No. 96		配当時期 4 年次全期	担当者
科目名 看護の統合と実践 看護研究Ⅱ	単位数 1 単位		上山 みゆき
時間割表記名 看護研究Ⅱ	時間数 30 時間（15 回）		山口 さゆり
科目のねらい 研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的な視点から深く考察し、質の高い看護を追究する能力を養う			DP との関連
授業目標 1. 研究計画書を作成できる 2. 看護研究を実践し、まとめ、発表する。 3. 研究発表会を企画、運営する。			人間理解
			倫理・関係構築
			看護実践
			協同・課題解決
			探究・成長
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回数	学習内容	学習成果	備考
1～4 回 4 月	テーマの決定 研究計画書の作成 研究計画書締切（4月30日水曜日）	（文献検索・Research Questionを明確にして授業に臨む） 「はじめに」「研究目的」の作成 研究計画書の基本的な書式の理解 引用文献の提示方法の理解 質問紙の作成	講義・演習 グループ学習
5 回 5 月	倫理審査研究計画書の修正 研究の開始	倫理審査の結果を見て、必要か所の修正をしていく 質問紙を完成させ、研究協力者に研究参加を求める準備を行う	講義・演習 グループ学習
6・7 回 6 月	調査の実施 調査結果分析 結果の作成 考察の検討	結果の入力ができる（Excelなど） 分析の実際ができる（KH Corderなど） 結果を鑑み、必要な追加の文献検索	講義・演習 グループ学習
8 回 7 月	調査結果分析 考察の作成	分析の実際ができる（KH Corderなど） 結果を鑑み、必要な追加の文献検索 分析結果から考察を考える	講義・演習 グループ学習
9 回 8 月	本原稿の執筆 本原稿締切（8月30日土曜日）	基本的な論文作成手順に従い、本原稿の執筆の修正・加筆、完成 ができる	講義・演習 グループ学習
10 回 9 月	抄録の作成 抄録締切（9月20日土曜日）	本原稿を見ながら、抄録を作成できる	講義・演習 グループ学習
11・12 回 10 月	発表原稿の作成 発表時のPower Pointの作成	発表時の原稿、スライドが作成できる 効果的なスライドが考慮できる（フォント、フォントサイズ、色彩など）	講義・演習 グループ学習
13 回 11 月	看護研究発表のリハーサル	担当者を中心に、会場準備、司会などの役割分担、各グループの発表のリハーサルができる	演習 グループ活動
14 回 11 月	看護研究発表会（両科合同） 11月10日月曜日 午後	各グループの発表ができる 発表会の運営ができる	演習 グループ活動
15 回 11 月	まとめ	全体を通して、看護研究のまとめができる	講義・演習 グループ学習
12月、本原稿（原著論文）最終提出			
受講上の注意 ① 提出物の期限を厳守すること ② 提出されたものはすべて評価対象物となるので、グループ名、学籍番号と氏名を記入する		評価方法 課題 60 点 発表 他取り組み状況 40 点	
使用するテキ 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院			

科目No. 97		配当時期 4 年次全期 単位数 1 単位 時間数 3 0 時間（1 5 回）	担当者 山口 さゆり	
科目名 看護の統合と実践 国際看護 時間割表記名 国際看護				
科目のねらい 国際看護学を知ることにより異文化に対する理解力が高まり、人間の多様性や個性を大切に 多文化共生社会の看護職として、個別の背景をふまえた対象理解ができる。			DP との関連	
授業目標 1. 国際社会の現状と国際協力活動、世界における健康格差やその背景を理解する。 2. 多文化共生社会において、看護にどのような文化的配慮が必要か理解する。 3. 異なる文化背景を持つクライアントや医療スタッフに対する理解を深める。 4. 日本における外国人を取り巻く状況を理解し、彼らの健康課題と保健・医療・看護活動の実際を学ぶ。			人間理解 倫理・関係構築 看護実践 協同・課題解決 探究・成長	○ ○ ○ ○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
授業初日に提出してください ①私にとっての国際看護・国際協力とは（300字程度 A4 字数を記入）				
回数	学習内容	学習成果	備考	
1	オリエンテーション、国際協力 国際協力、国際看護とは何か	国際看護（global Nursing）とは何かがわかる 国際協力の歴史・背景・現在がわかる ②国際協力機関をグループで調べ次回提出する	講義 グループワーク	
2・3	国際情勢 戦争と紛争の影響	国際社会の現状を知り、私たちの世界で何が起きているのかを知る ③現在起きている戦争・紛争をグループで調べて発表する PCお持ちの方は、ご持参ください	講義 グループワーク	
4・5	SDG s ・持続可能な開発目標 SDG s はなぜ提唱されたのか 私たちにできることは何か	SDG s とは何か、なぜ必要なのかがわかる 目標達成のために、自分自身にできることは何かが述べられる ④私たちにできることを一つ選び、ポスターを作成する	講義 グループワーク	
6	国際看護活動の実際 JICA海外協力隊とはなにか 活動の実際	JICA隊員からの講義を聞き、異文化における理解と協働を学ぶ ⑤講義で学んだ異文化における就労と、地域の人との協働について	外部講師 講義	
7	看護師の国際移住 他国での看護の実際	自国外で働く外国人看護師の実際が理解できる 多文化共生の環境の中での医療の実際が理解できる ⑥日本在住外国人の問題とはなにか	講義	
8・9	日本における外国人看護 在日外国人の動態、多文化共生とはなにか 文化を考慮した看護とはなにか	日本在住の外国人の人口動態や生活の特徴が理解できる 日本在住の外国人が直面している問題が理解できる 日本在住の外国人のケアの特徴が理解できる	講義 グループワーク	
10	外国人と災害	日本在住または旅行中の外国人が災害に直面した時に発生する事態が理解できる ⑦やさしい日本語グループワーク	講義 グループワーク	
11・12	異文化コミュニケーション 文化・常識の違い	異文化とは何か、お互いの違いをどうケアに活かすかが理解できる 14・15回目のグループ発表の準備	講義 グループワーク	
13	在日外国人の異文化体験	異なる文化背景を持つ人々の、生活や習慣が理解できる 日本における異文化体験が理解できる ⑧講義の異文化体験についての学びのまとめ	外部講師 講義 グループワーク	
14・15	この授業全般から、グループで興味を持ったテーマについてプレゼンテーションを行う	⑨各グループで10分のプレゼンテーション	発表	
受講上の注意 提出物の期限は厳守して下さい。 授業への積極的参加を期待しています。 チームの取り組みが多いので、一人ひとりが自分の役割を果たしチームに貢献できるように努めましょう。		評価方法 出席状況 2点 個人課題・グループワーク課題（①～⑧）48点 最終プレゼンテーション⑨ 10点 最終レポート 40点 等で評価		
使用するテキスト				